

平成23年9月16日（金）
（財）石川県埋蔵文化財センター
担当：調査部特定事業調査グループ
電話：076-229-4477
内線：6540

羽咋郡志賀町福井ナカミチ遺跡の発掘調査概要について

（財）石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を進めている、羽咋郡志賀町福井ナカミチ遺跡の調査経過の概要について、以下のとおり公表します。

◆調査概要

1 所在地等

- (1) 調査地 羽咋郡志賀町福井地内
- (2) 関係機関 県土木部道路建設課（中能登土木総合事務所）
- (3) 調査原因 県単道路改良工事（主）志賀田鶴浜線
- (4) 調査主体 石川県教育委員会
調査担当：財団法人石川県埋蔵文化財センター
- (5) 調査期間 平成23年8月1日～同年9月末（予定）
- (6) 調査面積 1,400㎡

2 調査の概要

発掘調査は継続中であるが、現在までに次のことが判明した。

福井ナカミチ遺跡は旧福野潟（ふくのがた）南縁の丘陵裾平地に立地する平安時代（9世紀後半～10世紀頃）の集落跡である。検出された遺構には掘立柱（ほったてばしら）建物、溝、土坑（どこう）などがあり、出土した遺物には須恵器（すえき）、土師器（はじき）、銅製帯飾りなどがある。

東西110mの細長い調査区では、2箇所調査区を横断する落ち込み（「落ち込み1」、「落ち込み2」）が検出されている。遺構はこの落ち込み以外の高い部分（「微高地1」、「微高地2」）で検出された。

微高地2では掘立柱建物、溝等が検出された。掘立柱建物は5棟以上が確認でき、同じ位置で数回建て替えられたものとみられる。

落ち込み2は幅20m以上・深さ1m程度の規模で、銅製帯飾りはこの上層から出土した。

微高地1では9世紀頃の製塩土器が多数出土した。土坑からの出土も多かった。

出土遺物で注目されるのは銅製の帯飾りである。奈良・平安時代の帯は官人装束の象徴とされており、その帯飾りが出土したことから福井ナカミチ遺跡に官人が居住していた可能性がある。

今後さらに調査を進め、遺構・遺物の検討や周辺遺跡の調査成果との比較検討を行うことにより、福井ナカミチ遺跡の構造や変遷、遺跡の性格などの様相を明らかにしていきたい。

《 参 考 》

◆一般公開

1 現地説明会

- (1) 日 時 平成23年9月18日（日）午前11時00分～12時00分（小雨でも実施）
- (2) 場 所 羽咋郡志賀町福井ナカミチ遺跡発掘調査現場
- (3) 目 的 福井ナカミチ遺跡発掘調査の概要を公開する
- (4) 対 象 県民、考古学に関心のある方
- (5) 内 容 発掘調査の概要説明と出土品の公開

2 主 催

石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター

問合せ先

○石川県教育委員会事務局文化財課 埋蔵文化財グループ
電話 076-225-1842（内線5628）

○財団法人石川県埋蔵文化財センター 調査部 特定事業調査グループ
電話 076-229-4477（内線6540）
090-5173-0209（調査事務所）

◎福井ナカミチ遺跡の位置



○周辺拡大図





発掘調査の様子（西から）



銅製帯飾り（縦 2.5cm×横 2.7cm）

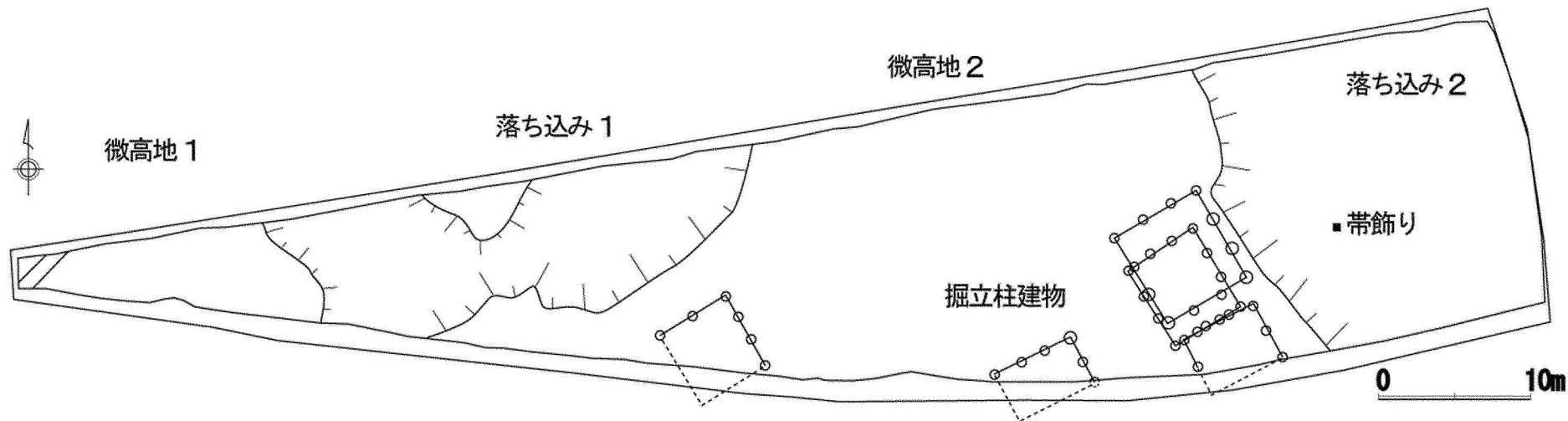


図 福井ナカミチ遺跡遺構配置概略図